

千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第37週 (9/11-9/17) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		37週	36週	35週	34週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	16	18	18	18
	眼科	4	5	5	5
	インフルエンザ*	25	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉県					千葉県 9/4-9/10 36週
		注意報	9/11-9/17	9/4-9/10	8/28-9/3	8/21-8/27	
			37週	36週	35週	34週	
小児科	RSウイルス感染症	○	31 1.94	32 1.78	48 2.67	26 1.44	248 1.85
	咽頭結膜熱		5 0.31	13 0.72	5 0.28	5 0.28	66 0.49
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	33 2.06	27 1.50	19 1.06	18 1.00	260 1.94
	感染性胃腸炎		51 3.19	65 3.61	70 3.89	44 2.44	382 2.85
	水痘		2 0.13	2 0.11	1 0.06	3 0.17	16 0.12
	手足口病	○★★★	100 6.25	101 5.61	144 8.00	149 8.28	759 5.66
	伝染性紅斑		0 0.00	5 0.28	2 0.11	0 0.00	11 0.08
	突発性発しん		8 0.50	10 0.56	17 0.94	15 0.83	66 0.49
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	ヘルパンギーナ	↓	30 1.88	36 2.00	42 2.33	43 2.39	305 2.28
	流行性耳下腺炎		5 0.31	4 0.22	5 0.28	7 0.39	37 0.28
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		9 0.36	6 0.21	3 0.11	4 0.14	37 0.17
	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
眼科	流行性角結膜炎		2 0.50	5 1.00	13 2.60	4 0.80	34 0.97
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
基幹定点	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	2 0.22
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(10件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査等	結核	女性	70歳代	IGRA検査等
結核	男性	60歳代	病原体の検出	結核	女性	70歳代	IGRA検査等
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	30歳代	細菌の検出、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出				
結核	男性	80歳代	胸水ADA値の上昇	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	女性	30歳代	IGRA検査	-	-	-	-

・第37週は、結核8件(165)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(13)、梅毒1件(25)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第37週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より増加し1.94となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.06となった。過去10年の同時期と比べると多い。

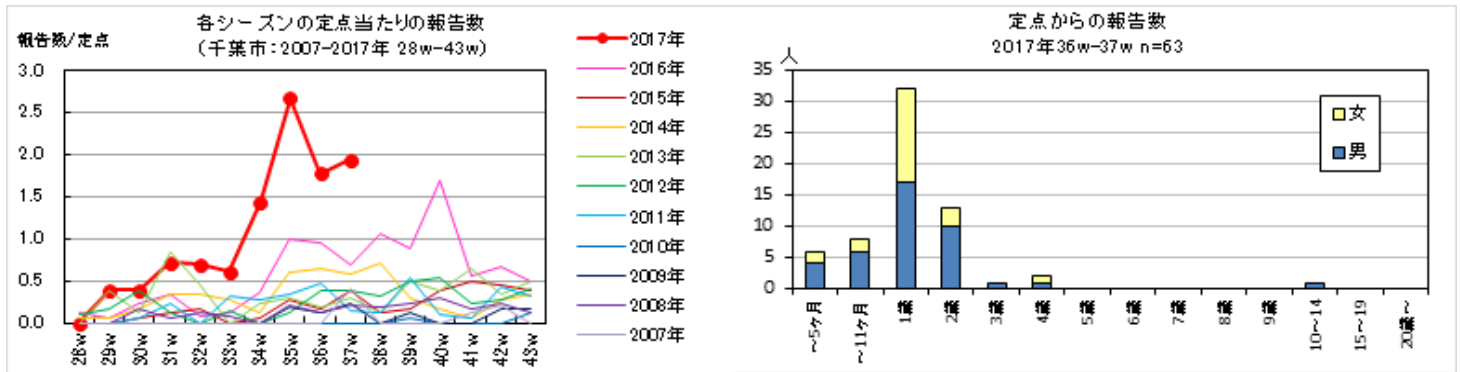
<手足口病> 前週より増加し6.25となった。流行発生警報開始基準値を上回ったままで過去10年の同時期と比べると多い。

<ヘルパンギーナ> 前週より減少し1.88となり、流行発生警報終了基準値を下回った。なお、若葉区では流行発生警報開始基準を、稲毛区では流行発生警報終息基準値を上回っている。

■ トピック ■

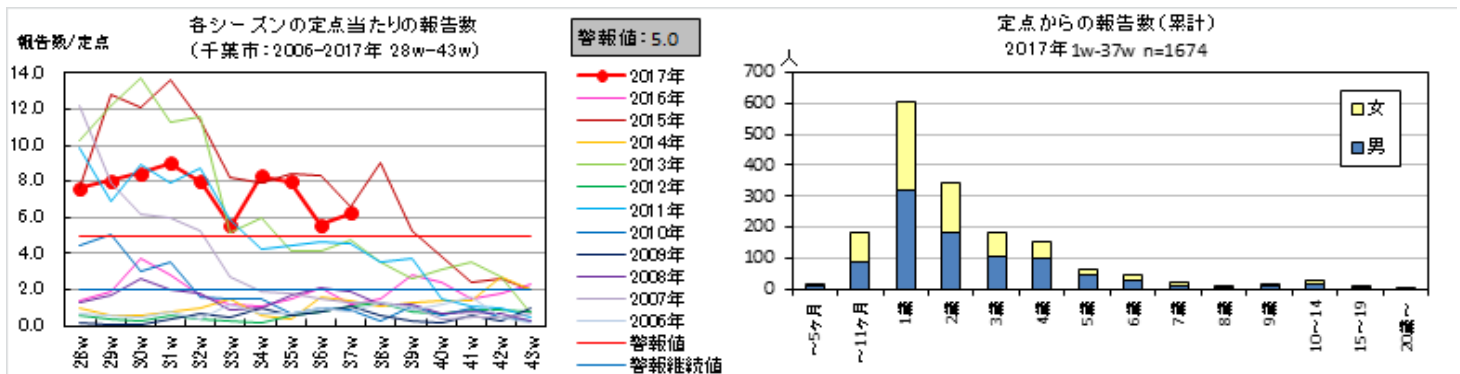
＜RSウイルス感染症＞

全国レベルでは第19週から過去10年の同時期と比べ最多のまま推移しており、第36週も同様で前週より若干減少したものの過去10年の全てのデータと比べて最多となり非常に流行している状況となっています。都道府県別では福島県、山形県、徳島県、石川県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の2017年第37週は前週より再び増加に転じ1.94となり、過去10年の同時期と比べると最多のままで、非常に大きな流行となっています。区別の発生状況は、緑区(5.5/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から第37週の報告数(n=63)によると、性別では男性が63.5%(40名)、女性が36.5%(23名)で、年齢階級別では1歳(50.8%:32名)、2歳(20.6%:13名)、6~11か月(12.7%:8名)の順に多くなっています。



＜手足口病＞

全国レベルの第36週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を下回りましたが、流行発生警報終息基準値(2.0/定点)は上回っています。都道府県別では福島県、長野県、宮城県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2017年第37週は前週より増加に転じ6.25となりました。流行発生警報開始基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(10.0/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。他に稲毛区及び緑区で流行発生警報開始基準値を上回っており、美浜区で流行発生警報終息基準値を上回り、中央区で流行発生警報終息基準値と並びました。2017年第1週から第37週までの累積報告数(n=1674)によると、性別では男性が54.6%(914名)、女性が45.4%(760名)で、年齢階級別では1歳(36.1%:604名)、2歳(20.4%:341名)、6~11か月(10.9%:183名)の順に多くなっています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの2017年第36週は過去10年の同時期と比べると2015年と並んで最多となっています。都道府県別では鳥取県、山形県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べて多くなっています。千葉市の2017年第37週は前週より増加し2.06となり、過去10年の同時期と比べると多くなりました。区別の発生状況は、若葉区(4.0/定点)で最も多く、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から第37週までの累積報告数(n=60)によると、性別では男性が55.0%(33名)、女性が45.0%(27名)で、年齢階級別では3歳(16.7%:10名)で最も多くなっています。

